

2023 年度事業計画について

I 2023 年度基本方針

新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、長らく停滞が続いていた社会経済活動は、政府が示した感染拡大防止と社会経済活動の両立を図る方針や、感染法上の位置づけを季節性インフルエンザなどと同じ「5 類」への移行等を受けて、正常化に向かっている。

2020 年度に端を発するコロナ下において、巣ごもり消費や在宅勤務といったデジタル技術を活用した非対面型の生活様式が伸展を見せたが、2022 年 3 月に行動制限が解除された以降は、多くの人々が外出先で交流を楽しむ姿がみられるなど、対面で交流することの価値が改めて見直されている。

このようなコロナ下での状況変化を踏まえ、リアルな交流の場を持つ SC は、商品購買の場という従来の枠組みを超えて、生活者の日常に寄り添い、その暮らしをより豊かにすることが重要となる。

こうした観点から、当協会では、顧客サービスの向上および SC に携わる方々の働き方改善に繋げるべく、SC 業界の DX への取り組み支援を進めてきた。これらの流れを強化すべく、2023 年度は、リアルな施設に求められる「ウェルビーイング」や持続可能社会への貢献に向けた「カーボンニュートラル」といった、会員企業が顧客サービスを高めるために継続的に行う取り組みを軸にして、次世代 SC を担うマネジメント人材の育成や日々の実務課題を相互に解決するための会員ネットワーク構築を推進する。

また、2023 年度は「2020 中期運営計画」の最終年にあたり、かつ、創立 50 周年を迎え、新たな時代を切り拓く重要な一年となる。模範解答のない挑戦になるが、これまでの半世紀にわたり培ってきた「人材育成」、「情報収集・発信」、「研鑽・交流促進」を事業の柱に、創立 50 周年記念事業を着実に推進するとともに、時代の変化に対応した会員に役立つサービスを提供することで、SC 業界の更なる発展に努めていく。

1. お客様と SC で働く人々 双方の豊かな暮らしの実現に向けたウェルビーイングの追求

身体的、精神的、社会的に良好な状態が持続していることを示す、「ウェルビーイング」に世の中の関心が急速に高まっている。

SC は、商品やサービス、快適な空間の提供等を通じ、「偶然の出会い」や「思いがけない体験」といった潜在的なニーズ、「居心地の良い空間」といった身体的ニーズ等、お客様の日々の暮らしに寄り添う機会を有している。

一方で、経済活動の回復とともに改めて顕在化する人材不足に対し、SC で働く全ての人々が生き生きと働き続けられる職場づくりが求められている。

そこで、当協会では、業界内外で先行的に実施されているウェルビーイング施策の好事例の収集・発信を行うとともに、ディベロッパーおよびテナントといった会員種別の垣根を超えた相互の議論を深め、SC 業界におけるウェルビーイングの水平展開を目指す。

2. 次世代の SC を担う人材の育成

日本に本格的な SC が誕生してから半世紀が経ち、昨今は、広場や公園などを活用した新たなタイプの商業施設が増加するとともに、エリアマネジメントを通じた地域連携への更なる期待が高まるなかで、従来の SC 経営に求められていたノウハウを超え、業界内外の多様な関係者と協業し、新たな価値を発想し提供することができる人材の育成が必要となる。

以上を踏まえ、SC アカデミーや SC 経営士会、支部活動といった協会資源を活用し、異なる業界と連携した新たな研修の企画、「SC の未来像」に関する闊達な議論とその発信、「新事業提案チャレンジピッチ」などを通じて、多角的な視野を持つ次世代マネジメント層の育成に取り組む。

3. 実務者間のネットワーク構築

コロナ禍を経て、SC が担う社会的役割の重要性が増すなかで、SC へ求められる期待が更に高まっている。日々の施設運営を行う実務者層は、顧客ニーズや業務課題が多様化、複雑化するなかで、自社ノウハウのみでは解決が難しい状況に直面しており実務者間が企業の枠を超えてタイムリーに情報を交換できるネットワーク構築へのニーズが高まっている。

以上を踏まえ、当協会では、支部、委員会、研修会、SCビジネスミーティングといった既存ネットワークを活用しながら、共通課題や類似業務に取り組む実務者が集う機会を創出し、ディベロッパー、テナントおよび賛助会員の実務者のネットワーク構築支援に取り組む。

4. カーボンニュートラル達成に向けた取り組み

再生可能なクリーンエネルギーに転換し、経済社会システムや産業構造を変革させて成長につなげる GX(グリーントランスフォーメーション)、そのなかでも地球温暖化対策の 1 つである「カーボンニュートラル」を基軸としたグリーン戦略が、世界的な注目を集めている。

SC は生活者の日常に深く関わる社会インフラの役割を担い、持続的にその価値を提供するためには、カーボンニュートラルへの貢献が不可避である。

当協会では、2013 年に低炭素社会実行計画として、2030 年までの業界目標を策定し、省エネ促進に取り組んできており、カーボンニュートラル達成に向けて、国や自治体等の動向を適宜把握しながら、会員各社に有益な情報を発信し、業界としての提言を行うとともに、新たな業界目標の設定に着手する。

5. 喫緊の課題に対する国等への機動的な対応

SCは安定的な経営のもと、地域社会におけるインフラ機能の役割を果たすことができる。近年は頻発する自然災害に加えて、新型コロナウイルス感染症や世界情勢不安に伴うエネルギー価格の急騰など、企業努力だけでは解決困難な課題にしばしば直面する。

当協会では、会員の事業継続に対する課題が発生した際に、会員の实状や国等の情報を迅速に把握するとともに、必要に応じて国等への要望活動を機動的に行うなど、引き続き会員各社の事業継続の支援に取り組む。

以上の基本方針に沿って、委員会、SC経営士会、支部が積極的に活動を進める。

なお、当協会が引き続きSC業界の発展に寄与するためには、安定的な協会運営基盤の構築が急務である。新規会員の入会促進により 2023 年度末の会員数は 930 社を目指すとともに、収益構造の見直しによる財務基盤の安定と事務局体制の強化などに取り組む。

Ⅱ 会議

1. 総会

【2023 年度】 第 51 回定期総会(2023 年 5 月 23 日)

2. 理事会

【2023 年度】 第 1 回理事会(2023 年 4 月 26 日)
第 2 回理事会(2023 年 5 月 23 日)
第 3 回理事会(2023 年 10 月 25 日)

3. 企画会議

【2023 年度】 第 1 回企画会議(2023 年 10 月 11 日)
第 2 回企画会議(2024 年 3 月下旬)

Ⅲ 支部活動計画

支部名	活動計画
北海道支部	2023 年度活動計画 (1) 支部総会・研修会・懇親会(2024 年 3 月上旬～中旬) (2) 運営委員会(第 1 回:6 月下旬～7 月上旬 第 2 回:10 月上旬～11 月上旬) (3) 研修会・懇親会(SC経営士会協力)「協会創立 50 周年記念事業セミナー」 (4) SC 接客ロールプレイングコンテスト北海道大会(10 月 12 日 新さっぽろアークシティホテル)
東北支部	2023 年度活動計画 (1) 支部総会(2023 年 3 月上旬～中旬) (2) 運営委員会(第 1 回:6 月下旬～7 月上旬、第 2 回:10 月上旬～11 月上旬) (3) 交流・研鑽 ①秋の研修会・懇親会(10 月上旬～11 月上旬) (SC経営士会協力)「協会創立 50 周年記念事業セミナー」 ②春の研修会・懇親会(2024 年 3 月上旬～中旬 支部総会と同時開催) (4) インバウンド推進に係る取り組み JSTO 東北支部など他団体と連携して実施 (5) SC接客ロールプレイングコンテスト東北大会(10 月 30 日・31 日)
関東・甲信越支部	2023 年度活動計画 (1) 支部総会(2024 年 3 月上～中旬) (2) 運営委員会(第 1 回:7 月、第 2 回:11 月中旬) (3) 単館 SC 研究会(年間 2～3 回) (4) 支部研修会(年間 3～4 回) (5) SC 接客ロールプレイングコンテスト支部大会 1) 関東・甲信越大会・・・11 月 27 日～30 日、12 月 1 日・4 日 2) 東京大会・・・10 月 2 日～6 日
中部支部	2023 年度活動計画 (1) 支部総会・講演会・懇親会(2024 年 3 月) (2) 運営委員会(7 月、12 月、2024 年 3 月) (3) 研修会(12 月) (4) SC 接客ロールプレイングコンテスト中部大会(9 月 20 日～22 日/JR ゲートタワーカンファレンス)
近畿支部	2023年度活動計画 (1)支部総会 (3月上旬～中旬) (2)運営委員会 (第1回:7月～8月 第2回:10月上旬～12月中旬) (3)第 9 回日本 SC大賞・第 7 回地域貢献大賞支部ノミネート委員会 1)第4回(4月上旬) 支部特別賞の決定 (4)交流・研鑽 1)研修会・懇親会 (SC経営士会協力)「協会創立50周年記念事業セミナー」10月上旬～12月中旬 2)SC フォーラム・懇親会 (3月上旬～中旬)＊支部総会と同日開催 (5)SC研究会 4月1日付けで座長交代を行い、今後の活動方針、活動計画を策定し、セミナーや視察等の取り組みを実施予定。 (6)SC接客ロールプレイングコンテスト近畿大会 (10月17日～20日)

中国・四国 支部	2023 年度活動計画 (1) 支部総会 (3 月上旬～中旬) (2) 運営委員会 (第 1 回:6 月～8 月上旬、第 2 回:10 月～12 月中旬) (3) 交流・研鑽 1) 秋の研修会・懇親会 (10 月～12 月中旬) (SC 経営士会協力)「協会創立 50 周年記念事業セミナー」 2) 春の研修会・懇親会 (3 月上旬～中旬 支部総会と同時開催) (4) SC 接客ロールプレイングコンテスト中国・四国大会 (11 月 16 日・17 日/おかやま未来ホール)
九州・沖縄 支部	2023 年度活動計画 (1) 支部総会・視察研修会・懇親会(2024 年 3 月上旬～中旬) (2) 運営委員会(第 1 回:7 月 14 日、第 2 回:10 月上旬～11 月上旬) (3) 研修会・懇親会(SC経営士会協力)「協会創立 50 周年記念事業セミナー」 (4) 他支部とのオンライン情報交換会(11 月上旬～下旬) (5) SC 接客ロールプレイングコンテスト九州・沖縄大会(9 月 28 日・29 日 JR 九州ホール)

IV 委員会事業計画

1. 総務・会員委員会

(2023 年度より公共政策・環境委員会と統合)

1. 2023 年度 基本方針

- (1) 会員サービスの向上に努め、会員数 930 社とする
- (2) 人材確保対策への取り組みの推進
- (3) 2020 中期経営計画(2020～23 年度)の総括
- (4) 支部、委員会、SC 経営士会の各事業の進捗状況の把握及び総合調整
- (5) 2023 年度予算管理の徹底
- (6) 創立 50 周年記念事業の推進
- (7) 会員相互のネットワーク構築支援
- (8) 公共政策に関する情報収集と各種要望・周知活動の実施
- (9) 公共政策ワーキングの設置と税制等改正要望活動の実施
- (10) 環境ワーキングの設置と新たな環境目標の設定

2. 事業計画(骨子)

(1) 人材確保対策特別委員会／ES・働き方改革の取り組み

1) ウェルビーイング研究会の継続と深度化

今年度立ち上げたウェルビーイング研究会による議論を継続する。

次年度は目指すべき状態に対応する打ち手や先行事例の議論・蓄積を行い、協会内外に発信していく。

また、ディベロッパーとテナントの機動的な問題共有や課題解決に向けて、相互が意見交換を行う場を設けるなど、対話の強化にも取り組んでいく。

2) 「ショッピングセンターにおける ES 宣言・行動指針」の点検と見直し検討

2018 年に策定した ES 宣言等について、以降の社会状況や生活様式、働き手の価値観の変化を鑑み、実態やあるべき姿との乖離がないか点検を行い、必要に応じて見直しを行う。

見直しにあたっては、ウェルビーイング研究会の知見を反映する。

3) 従来事業の継続実施

人材確保に関する定量調査を行い、その調査結果を会員間で共有するほか、各専門委員会と連携して SC における ES や働き方改革への取り組みを推進する。

(2) 会員増強について

1) 会員数の現状と 2022 年度について

2022 年度は、会員のご協力のもと、前年よりも賛助企業の入会が増え、56 社(2021 年度は 58 社)が入会した。退会は 47 社(前年 78 社)で、2022 年度末の会員数は 919 社であった。目標 920 社には届かなかったものの、前年に比べて退会数は減少している。特に賛助会員が前年に比べて 10 社増となったのは、会員企業の紹介やご支援に加えて、経済活動が正常に戻る傾向と捉えている。

会員各位の協力を仰ぎながら、様々な施策を行い、2023 年度末の会員数は 930 社を目指す。

2) 会員数安定化のための施策

2022 年度は、賛助会員、特にファシリティ関連企業からの問い合わせや入会が増えた。また電気代高騰など収益に影響の大きい固定費削減への関心が高いことなどから、2023 年度は会員企業の事業継続の支援を担う、賛助会員(サポート企業)の入会促進を行う。

< 具体的施策 >

- ・SC ビジネスフェア 2023 出展者および来場者に、次の開催案内と併せて、アプローチを行う。
- ・支部研修会(懇親会含む)において、会員紹介があった場合、会員外企業の参加を許可し、協会活動を体感していただく機会を創出する。
- ・SC ビジネスミーティング(会員による事業提案・オンライン開催)や、共通課題や類似業務に取り組む実務者が集う機会を創出する「SCサロン」について、始動していく。

(3) 公共政策に関する情報収集と各種要望・周知活動

基礎的活動として、官公庁等の委員会参加や直接的な連携を通じて幅広く情報を収集。特にバリエーションの基準見直しや物流問題、カーボンニュートラルやエネルギー価格急騰対応など喫緊の課題について情報収集や連携を強化するとともに、必要に応じた要望・提言を行う他、説明会や HP・月刊誌等による会員への情報提供に努める。

(4) 2024 年度税制等改正要望の取り組み

各種コスト高や社会課題への対応を迫られる一方、地域に果たす役割も増大している SC に対する経済政策や災害対策、その他 SC 現場の課題解決に向けた政策等を要望していく。要望にあたっては SC 業界に必要なかつ実効性の高い要望を行うべく、検討ワーキングを設置し、取りまとめを行う。

(5) 環境問題への取り組み

国の掲げる 2050 年カーボンニュートラルの実現に向け、国や地方自治体等の政策に関する動向を適時適切に把握する。また、低炭素社会フォローアップ調査を継続実施し、最新調査結果の把握しつつ、現行の低炭素実行計画における削減目標値の見直しに向けたワーキングで検討を進める。

また、環境への取り組みについて業界内外の先進事例・好事例の収集に努め、会員企業が SC で取り組む参考となるような発信を行う。

2. 人材育成委員会

(2023年度より接客ロールプレイングコンテスト実行委員会と統合)

1. 2023年度 基本方針

2023年度は協会創立50周年を迎え、人材育成の軸となるセミナーの見直しを行うとともに、一人でも多くの方に参加していただくために、参加形態や受講料の見直しを行う。

また、SC経営士会や月刊誌『SC JAPAN TODAY』など連携を強化、“SC業界の人材育成”に寄与していく。通信教育講座は約10年ぶりにテキストの改訂を実施するのにあわせて、演習問題や修了レポートのオンライン化を図り、会員ニーズに即した企画・推進を図り、会員の参加数拡大を目指し、効果的な実施に努めていく。

SC 接客ロールプレイングコンテストおよび SC 接客マイスターにおいては、以下の2項目を重点実施項目として施策を推進する。

(1) SC接客マイスター試験審査のさらなる平準化

専門審査員説明会等での審査員への説明により、専門審査員同士の審査の点数差が年々改善されている。さらなる実技試験、筆記試験の審査の平準化を目指す。

(2) ロールプレイングコンテスト支部大会でのライブ配信の実施

会場へ応援に来ることが難しい競技者の所属する企業の関係者のために、2022年度に実施した各支部大会のライブ配信を引き続き行う。

2. 事業計画(骨子)

(1) 研修会(セミナー)

初心者・初級者向けの基本セミナーや先進事例などを取り上げた事例研究セミナー、SCの現場で起きている課題から業界における課題の解決に寄与するセミナーを企画・推進していく。

具体的には、協会のシンクタンクの役割を持つSC経営士会や月刊誌『SC JAPAN TODAY』の特集テーマとの連携、さらに異なる業界とも連携しながらセミナー企画をし、受講形態の見直しや複数名受講の場合の割引などについても検討する。

また、メルマガやSNSを活用してセミナーをはじめとした人材育成事業の認知度向上に努めていく。

(2) 通信教育

以下の3点を具体的施策として掲げる。

1) 主に新入社員や入社(SC業務歴)5年以内の方、基本を再確認したい方々を主な対象として、SC開発及びSC管理運営の基本を学んでいただく

2) 全面改訂した新テキストによる講座を5月から開講する。

3) 運用については、これまでペーパーであった演習問題や修了レポートの添削・評価を見直し、要望の多かったオンラインで運用していく。

(3) 海外研修会

2020年度から中止している海外研修会の再開を予定する。視察先は、米国の西海岸や東海岸、ハワイを候補地にし、2022年1月にアマゾンが初のアパレル実店舗「Amazon Style」をオープンしたロサンゼルスにあるSCや2021年9月にマンハッタンのハドソンヤード*敷地の隣に新コミュニティ開発としてオープンしたSCなどを視察し、これからの我が国SCが歩むべき方向性を考察する視察研修会の実施を予定する。なお、12月までの開催の目途が立った場合は、創立50周年記念を冠に実施する。

*ハドソンヤード：マンハッタンにおける大規模複合開発。その中のオフィス群のうちの一部を三井不動産が開発している。

1) 催行時期

①2023年11月 ※創立50周年記念企画として実施予定

②2024 年 2 月または 3 月

- 2) 視察先候補地
米国（ハワイ含む）

(4) SC経営士試験

現行の試験制度の課題を整理しながら、将来のSC業界のリーダー的役割を担う「SC経営士」（現在および将来のSC経営やSC業界、地域社会の発展に貢献できる資質を持った方）の育成を目的に、試験内容のさらなる充実を図る。

(5) SCアカデミー

- 1) 前期と同様にオンラインを活用しながら、全国規模で遠隔地の方でも受講しやすい環境を提供する。
- 2) 2023年度（第17期）も、「合宿研修」、「SC総論Ⅰ」、「SC総論Ⅱ」、「SC経営実践論」、「特別演習」「特別講義」「ゼミ」を継続する。
- 3) 2024年度（第18期）に向けて、現在のカリキュラムや進め方などを精査し、改善を図る。

(6) SC マネジメントブック

前回の改訂（2016 年 11 月）よりコロナ下を経て約 7 年が経過している為、内容の精査を行い、具体的な改訂を検討する。

(7) SC テナントスタッフハンドブック

前回の改訂（2015 年 6 月）よりコロナ下を経て約 8 年が経過している為、内容の精査などを行い、具体的な改訂を検討する。

(8) サポート関連（研修講師派遣）

上述の研修会（セミナー）と同様にメルマガや SNS 等を活用し認知度向上に努めていきながら、各 SC におけるテナント店長・スタッフ向け研修カリキュラム、ディベロッパー向け研修カリキュラムの提案をしていく。

(9) 冠講座

SC経営士会との連携のもと、年間2校を実施する。

前期…流通科学大学（兵庫県神戸市）

後期…多摩大学（東京都多摩市）

(10) SC経営士資格 登録更新講習

- 1) 2023年度登録更新対象者数

133名（予定）

- 2) 2023年度登録更新について

2022年度と同様に、講習は年2回、会場参加とオンライン参加（Zoom）を併用する。

（ハイブリット形式を採用）

講習の内容は、前年同様SC経営士会に企画・立案していただく。

2023年度セミナー年間スケジュール

※日程・内容等変更する場合がありますのでご了承下さい。

※プログラムおよび講師情報等が確定次第、順次当協会 HPにてご案内をさせていただきます。

※セミナーの収録データをオンライン視聴できるアーカイブ配信も行っております。配信期間は順次当協会 HPにてご案内をさせていただきます。

No.	月	日	曜日	セミナー名	開催方法	開催地	分類
1	4	25	火	SC基本管理運営セミナー（1日目）	会場	東京	A.基本
2	4	26	水	SC基本管理運営セミナー（2日目）	会場	東京	A.基本
3	5	10	水	SCの基礎を学ぶセミナー ※旧「フレッシューズセミナー」	会場	東京	A.基本
4	5	11	木	SC基本開発セミナー	会場	東京	A.基本
5	5	18	木	マーケティングの基礎を学ぶセミナー	会場	東京	A.基本
6	5	25	木	ディベロッパー向けSC出店契約書作成セミナー	会場	東京	A.基本
7	6	8	木	テナントミックス・リーシングの基礎を学ぶセミナー	会場	東京	A.基本
8	6	15	木	「SC JAPAN TODAY5月号」連動企画セミナー	会場	東京	★.事例研究
9	6	22	木	SC契約実務セミナー	会場	東京	A.基本
10	7	6	木	SC施設管理セミナー	会場	東京	A.基本
11	7	12	水	緑陰トップフォーラム	会場	東京	D.経営者向け
12	7	19	水	「SC JAPAN TODAY6月号」連動企画セミナー	会場	東京	★.事例研究
13	7	20	木	事業戦略セミナー	会場	東京	C.中堅向け
14	7	27	木	最新SC情報セミナー（春開業編）	会場	東京	★.事例研究
15	8	3	木	危機管理対策セミナー（防火防災編）	会場	東京	A.基本
16	8	23	水	SC運営業務のステップアップ（1回目/全6回）	会場	東京	B.ステップアップ
17	8	24	木	「SC JAPAN TODAY7・8月号」連動企画セミナー	会場	東京	★.事例研究
18	8	30	水	SC運営業務のステップアップ（2回目/全6回）	会場	東京	B.ステップアップ
19	9	6	水	SC運営業務のステップアップ（3回目/全6回）	会場	東京	B.ステップアップ
20	9	13	水	SC運営業務のステップアップ（4回目/全6回）	会場	東京	B.ステップアップ
21	9	20	水	SC運営業務のステップアップ（5回目/全6回）	会場	東京	B.ステップアップ
22	9	27	水	SC運営業務のステップアップ（6回目/全6回）	会場	東京	B.ステップアップ
23	9	28	木	SC販促・イベントセミナー	会場	東京	★.事例研究
24	10	5	木	テナント向けSC法律セミナー	会場	東京	A.基本
25	10	12	木	「SC JAPAN TODAY9月号」連動企画セミナー	会場	東京	★.事例研究
26	10	24	火	SC基本管理運営セミナー（1日目）	会場	大阪	A.基本
27	10	25	水	SC基本管理運営セミナー（2日目）	会場	大阪	A.基本
28	10	26	木	SC基本開発セミナー	会場	大阪	A.基本
29	11	2	木	マーケティングセミナー（応用編）	会場	東京	B.ステップアップ
30	11	9	木	BCP策定手法を学ぶセミナー	会場	東京	C.中堅向け
31	11	16	木	「SC JAPAN TODAY10月号」連動企画セミナー	会場	東京	★.事例研究
32	11	21-22	火-水	秋晴れトップフォーラム	会場	未定	D.経営者向け
33	11	29	水	最新海外SC情報セミナー	会場	東京	★.事例研究
34	12	14	木	SCリニューアルセミナー（館全体編）	会場	東京	★.事例研究
35	12	21	木	「SC JAPAN TODAY11月号」連動企画セミナー	会場	東京	★.事例研究
36	1	11	木	最新SC情報セミナー（秋開業編）	会場	東京	★.事例研究
37	1	18	木	「SC JAPAN TODAY12月号」連動企画セミナー	会場	東京	★.事例研究
38	2	8	木	空き区画活用セミナー	会場	東京	★.事例研究
39	2	15	木	「SC JAPAN TODAY1・2月号」連動企画セミナー	会場	東京	★.事例研究
40	2	22	木	SCリニューアルセミナー（飲食ゾーン編）	会場	東京	★.事例研究
41	3	7	木	危機管理対策セミナー（食の安全管理編）	会場	東京	A.基本
42	3	14	木	早春スペシャルセミナー	会場	東京	D.経営者向け
43	3	21	木	SDGsセミナー	会場	東京	C.中堅向け

(11)接客マイスター

1) 2023 年度試験の申込から合格・認定まで



2) 2023 年度試験の申込締切日

北海道大会出場者	2023 年 9 月 19 日(火)17 時
東北大会出場者	2023 年 10 月 2 日(月)17 時
関東・甲信越大会出場者	2023 年 11 月 2 日(木)17 時
東京大会出場者	2023 年 9 月 7 日(木)17 時
中部大会出場者	2023 年 8 月 28 日(月)17 時
近畿大会出場者	2023 年 9 月 25 日(月)17 時
中国・四国大会出場者	2023 年 10 月 23 日(月)17 時
九州・沖縄大会出場者	2023 年 9 月 4 日(月)17 時

(12) SC 接客ロールプレイングコンテストの円滑な運営

【支部大会日程】

大会名	開催予定日	会場	申込締切日	競技順・スケジュール公表日
北海道大会	10月12日（1日間）	新さっぽろアーキシティホテル	8月28日(月)	9月15日(金)
東北大会	10月30日、31日（2日間）	ホテルメトロポリタン仙台	9月11日(月)	9月29日(金)
関東・甲信越大会	11月27日～30日、 12月1日・4日（6日間）	IMAホール（光が丘IMA）	10月13日(金)	10月31日(火)
東京大会	10月2日～6日（5日間）	ムーブホール（サンポップマチヤ）	8月17日(木)	9月6日(水)
中部大会	9月20日～22日（3日間）	JRゲートタワーカンファレンス	8月7日(月)	8月25日(金)
近畿大会	10月17日～20日（4日間）	ホテル京阪京橋	9月4日(月)	9月21日(木)
中国・四国大会	11月16日～17日（2日間）	おかやま未来ホール（イオンモール岡山）	10月2日(月)	10月20日(金)
九州・沖縄大会	9月28日・29日（2日間）	JR九州ホール（JR博多シティ）	8月14日(月)	9月1日(金)

※各会場ともに参加者数に応じて開催日数が変更になる場合があります。

3. 情報委員会

1. 2023 年度 基本方針

情報委員会は、月刊誌「SC JAPAN TODAY」(以下、月刊誌)や協会WEBサイトなどの媒体の発行・運営、広報活動などを所管する委員会であり、SC業界および当協会の情報発信の中心的役割を担っている。

2023年度のSCを取り巻く環境は、アフターコロナに向けて経済活動の再開が本格化する一方で、インフレや人手不足、光熱費高騰など不安定な状況が続くと見込まれる。こうした状況下で、会員が具体的な施策を検討する際に参考となる情報を積極的に発信していくとともに、2022年度より取り組んでいる情報発信手段の再構築検討の第2フェーズとして、さらなる具体化を進めて情報発信を強化していく。さらに、協会創立50周年を迎えるにあたり、総務・会員委員会と連携して記念媒体を制作する。

2. 事業計画(骨子)

(1) 協会創立50周年記念媒体の制作

協会創立50周年の記念媒体として、特設WEBサイト(5月公開)と記念写真集(5月発行)を制作するほか、月刊誌(5～12月号)に記念コンテンツを掲載する。SC業界・協会のこれまでのあゆみを振り返りつつ、これからの挑戦につながるメッセージを発信する。

(2) 会員企業の事業に役立つ専門情報

月刊誌では、「トレンド・新潮流」「課題」「SCとしての使命」を軸として、時流に即した特集を企画し、先進企業事例や専門家による解説など、会員が具体的な施策を検討する際に参考となる情報を発信する。併せて、上記を踏まえた新連載を開始する。

(3) 業界・協会の取り組みの積極的発信

定例記者懇談会やプレスリリース、月刊誌などでSC業界・協会双方の取り組みを積極的に取り上げて業界内外に発信することで、業界全体の魅力向上に努める。

(4) 情報発信手段の再構築(第2フェーズ)

2022年度より取り組んでいる月刊誌の媒体力向上検討の第2フェーズとして、前年度に実施した会員アンケート結果などを参考に、見やすさ・読みやすさ・情報の量質などの観点から、誌面レイアウト試作などを通じて具体化を進め、2024年度のリニューアルを目指す。

4. 調査研究委員会

1. 2023 年度 基本方針

調査研究委員会では、「国内外SCおよび流通全般にわたる調査及び実情把握、提供」、「経営支援情報等、当面の課題に対する調査研究」、「各国のSC関連団体との交流」を軸に活動を行っている。

2022 年度は、商業施設の形態が多様化している昨今の状況を踏まえ、現行のSC定義・SC取扱い基準とSC開発の現状との整合性の検証を進めてきた。2023 年度は、前年度の検証内容を踏まえて、どのようにSC定義・取扱い基準を改定すべきか具体的に検討していく。

また、協会創立 50 周年という節目を迎えるにあたり、これまで蓄積してきた統計データをあらためて整理し、SC業界をデータで振り返るとともに、より多くの方に協会データを活用いただけるよう、データの検索システムの整備を進める。

2. 事業計画(骨子)

(1) SC定義・取扱い基準の改定の検討

昨今、商業施設開発の多様化(飲食・サービス中心の施設など)やテナント1店舗当たりの面積増の傾向がみられ、一般的にSCとみられる施設も現行のSC取扱い基準を満たさない施設が散見される。このような状況を鑑み、2022 年度は現行のSC定義・SC取扱い基準とSC開発の現状との整合性の検証を進めてきた。2023 年度は、その検証内容を踏まえて改定案の具体的な検討を進める。

(2) 長期的な統計データの整理

2023年度に協会創立50周年を迎えるにあたり、これまでのSC業界を振り返られるSCデータの整理を進め、SC白書や協会WEBサイトで公開する。また、これまで蓄積してきた各種統計データを会員が協会WEBサイトで検索し、資料作成などに活用できる仕組みを構築する。

(3) SC販売統計調査

販売統計調査は、月次、四半期、上半期、下半期、年間調査を着実に実施する。また、精度向上のため、地域による偏りをなくすなどサンプル構成の適正化を考慮したサンプル増に努める。

(4) SC賃料・共益費実態調査 2023

契約形態別(個別徴収、総合賃料・賃料名目一本化)にて、月坪賃料、月坪共益費、総合賃料を調査する。また、従来は 12 月に調査結果を発表していたが、前年の賃料額の調査であることから、結果をより早く活用いただくことができるよう、調査開始時期を早め 9 月下旬の発表を予定している。

(5) 『SC白書 2023』の発刊

国内外のSC業界の 2022 年の動向を記載し、5 月 23 日の定期総会開催日に協会 WEB サイトにて公開し、SC業界動向を広く周知する。また、協会創立 50 周年という節目であることから、日本のSC業界を振り返る長期的な統計データを整理するとともに、米国および欧州のSC業界の歴史についても記載する。

(6) SCオープン、計画情報およびSC基礎データ一覧の更新

SCの新規オープン情報に加えて、会員に向けてSCの開発計画(月次)ならびに全国のSCの基礎情報(年1回・6月)を発信する。新規オープンSCについては施設紹介にとどまらず、定量面での特徴の変化をまとめ、SC業界のトレンド情報を発信する。

5. 全国大会実行委員会

1. 2023 年度(第 48 回大会) 基本方針

SCビジネスフェアは、『出会い、発見、チャンス。そして未来へ。』をスローガンに掲げ、SC 業界に携わる企業や人々に、ビジネスチャンスや情報交換の場を提供してきた。新型コロナ下において、非対面の生活様式が伸展し、SC を取り巻く環境も激変したが、SC ビジネスフェアでは、コロナを経験したからこそ原点に立ち返り、「ビジネスチャンスの創出」「研鑽と交流の場」を軸にした活動を行う。リアルな SC が成長を続けるための、コンテンツの充実を図り、SC 業界最大のイベントとしての価値向上を目指す。

2. 事業計画(骨子)

(1) 第48回日本ショッピングセンター全国大会概要

会 期	2024年1月24日(水)～26日(金)
会 場	パシフィコ横浜
参加者	会員を中心としたSCディベロッパー、テナント、サポート企業、官庁、関連団体、学生
主 催	(一社)日本ショッピングセンター協会
後 援	経済産業省、国土交通省、農林水産省、横浜市、日本経済新聞社、織研新聞社、産業タイムズ社(順不同)
協 賛	日本商工会議所／日本小売業協会／全国商工会連合会／日本百貨店協会／日本チェーンストア協会／日本専門店協会／日本フランチャイズチェーン協会／全国スーパーマーケット協会／日本ボランタリーチェーン協会／日本スーパーマーケット協会／日本フードサービス協会／日本チェーンドラッグストア協会／全国地下街連合会／不動産協会／日本ビルディング協会連合会／全国商店街振興組合連合会／協同組合連合会日本専門店会連盟／商業施設技術団体連合会／日本商環境デザイン協会／流通システム開発センター／再開発コーディネーター協会 (順不同)
特別協賛	数社(SCビジネスフェア出展者、セミナー登壇企業、SC協会会員企業等)

●SCビジネスフェア2024 (商談展示会、セミナー) 会期 2024年1月24日(水)～26日(金) 会場 展示ホールC・D、アネックスホール 内容 多彩な企業がブースを構えるSC業界唯一の商談展示会。展示ホールでは出展ブースのほか、無料セミナー、発見マルシェ、ピッチイベントを併催。アネックスホールでは有料セミナー、賀詞交換会を兼ねた懇親パーティーを開催。初日は、展示ホールコンコースにて、オープニングテープカットを行う。	●第29回SC接客ロールプレイングコンテスト全国大会 会期 2024年1月26日(金) 会場 パシフィコ横浜 会議センター 内容 支部大会を勝ち抜いた接客のスペシャリストが集い、“SC接客日本一”を決定するSC業界テナントスタッフ対象のロールプレイングコンテスト。大賞受賞者には経済産業大臣賞が贈られる(予定)。
---	--

(2) SCビジネスフェア 2024 事業計画骨子

1) ビジネスチャンス創出の強化

- ①多くの企業が出展出来るよう、最大出展小間数をこれまでの8小間から6小間に変更する

- ②紙媒体に加え、SNS 等を強化し SC ビジネスフェアの周知を図り、新たな来場者と出展者増を図る。
- ③ブース配置や交流コーナーの位置などを検証し、会場の有効活用に努める。

2) セミナープログラムの充実

- ①有料セミナーでは、SC関係者の課題解決の一助となり、各社のイノベーションに繋がるようなプログラムを企画、講師を誘致する。
- ②無料セミナーでは、SC関係者の関心が高いテーマを設定し、実務に役立つ内容を進める。

3) チャレンジピッチのブラッシュアップ

- ①協会創立50周年記念の新規事業としてスタートしたチャレンジピッチは、新時代に向けたSC業界の発展に寄与する事業として推進させる。
- ②チャレンジピッチの企画、運営については来場促進にも繋がるようブラッシュアップを図る。

6. デジタルトランスフォーメーション委員会

1. 2023 年度 基本方針

DX 委員会は、SC における業務効率化・生産性向上など、持続的成長のための様々な課題解決に向けて、ニューテクノロジーの活用支援、DX 推進に取り組みやすい環境の整備、DX に取り組む機運の醸成に取り組み、DX 活用による会員企業の更なる事業展開に寄与することを目的としている。

具体的には、「EX(従業員体験)×協調領域」は重点テーマとして『「売上報告／売上管理」の効率化・生産性向上』を設定しワーキンググループで課題の深堀と解決策について検討を進めてきた。2023 年度は、ディベロッパーとテナントの売上情報の連携に関するあるべき業務フローをもとに、実装に向けたベンダー企業との意見交換を本格化するとともに、業界全体での問題意識・解決機運の加速を図る取組みも継続して行う。

「CX(顧客体験)×競争領域」は、2021 年度から開始したDX勉強会の継続を通し、業界のDX人材育成に寄与し、SC業界でのDX推進、CX向上を図る。また幹事団による企画・運営体制を強化し、業界ニーズに即したテーマを引き続き取り上げていく。

2. 事業計画(骨子)

(1)「売上報告／売上管理」の効率化・生産性向上

昨年度の WG で導いたテナントとディベロッパーの売上情報の連携におけるあるべき業務フロー案について、その実装に向けてベンダー企業を交えた意見交換を行い、システム開発促進の素地を作る。

また、業界全体での問題意識・解決機運の加速を図る取組みも継続して行う。

これらを実現するために、2023 年度も引き続きWGを継続する。

(2)DX勉強会

2023 年度は 3 回のDX勉強会を開催し、引き続きSC業界のDX人材育成に寄与する委員企業による幹事団制を継続・強化し、会員ニーズに即した企画を行っていく。

7. SC 経営士会

1. 2023年度 基本方針

昨年度は新型コロナウイルス感染症対策と経済活動の両立という政府の方針もあり、社会全体も徐々に活発化の兆しをみせる中、「something new」の取り組みをはじめ、各専門グループ及び各ブロック共に着実に計画を推進することができた。

本年度は新型コロナウイルス感染症の状況は不透明であるが、SC 業界の潮流変化に敏感に対応しつつ、出来るだけリアルでの開催を優先し各企業の枠を超えて各専門グループ及び各ブロックの活動を通じ、引き続き「something new」の取り組みを推進していく。また、本年度より始まる SC 協会創立 50 周年事業へ積極的に参画し、SC 経営士会のミッションである SC 協会のシンクタンクの機能の発揮に努める。

2. 事業計画(骨子)

上記の基本方針を受けて、各専門グループ及び各ブロックが、2023 年度も積極的に活動していく。

(1)研鑽・研究グループ

- 1) 例会及び相互研鑽のための新たな研修会等の企画・実施
- 2) SC 経営士更新講習の企画
- 3) 人材育成委員会からの依頼に基づく研修会の企画・実施への参画
- 4) 研究活動
 - ・SC 協会創立 50 周年記念事業の一環として各支部において実施される「SC の未来像」に関するセミナー
 - 「SC 経営士会による研究と概要」の全国展開及びそれに関連する事業の円滑な推進

(2)業務広報グループ

- 1) 人材育成委員会からの依頼に基づく冠講座(流通科学大学、多摩大学)の企画・実施
- 2) SC 経営士会【THE CIRCLE】の企画・作成
- 3) 若手・中堅 SC 経営士交流会(仮称)の企画・開催
- 4) 年次ゼネラルミーティングの企画・運営
- 5) SC ビジネスフェア 2024 SC経営士会セミナーの企画・運営
- 6) SC ビジネスフェア 2024 協会ブースSC経営士会コーナーの企画・運営
- 7) SC 経営士相互交流のための名簿作成

(3)ブロック活動

- 1) SC 経営士相互の交流を促進するための行事についての企画・実施
- 2) 例会への企画提案及び例会運営への協力業務の実施
- 3) ブロック内における各種研修会等の企画・実施
- 4) SC 協会創立 50 周年記念事業の一環として各支部において実施される「SC の未来像」に関するセミナー
- 「SC 経営士会による研究と概要」の各支部との連携における企画・実施

(4) something new の取り組み

昨年度に引き続き SC 経営士の各事業および SC 協会事業への参画意識の向上と SC 経営士会が SC 経営士及び SC 経営士に興味を持つ人にとっての第 4 の場「フォースプレイス」として交流の活発化を図る為、様々な分野において「something new」にチャレンジする。

(5) SC 協会創立 50 周年事業への取り組み

本年度よりスタートする SC 協会創立 50 周年事業へ以下の様に積極的な展開を図る。

1) 人材育成委員会主催研修会における SC 経営士の積極的関与

大きな変革期に対応し、かつ将来の SC 業界を担う人財の育成にあたり、ディベロッパー、テナント、賛助会員に向けた研修会等の企画・実施に、SC 経営士が積極的に関与する体制を整備していく。

2) SC の未来像についての研究とその成果発表を兼ねたセミナー全国展開

SC 経営士会で研究を行う「SC の未来像」について、その成果を各支部の研修会にて発表し、地域における SC の将来に向けたヒントを探る意見交換等を行い、研鑽・交流の一助とする。

3) 各ブロックにおける「ミニ冠講座」の実施と大学の会員化

会員の新たなカテゴリーとして大学の設定を目指し、各ブロックにおいてミニ冠講座の実施により大学教授との新たな関係を構築。

4) SC 経営士会活動の一部オープン化

SC 経営士会の活動および協会活動の認知度を高め、会員獲得を推進。

(6) SC 協会会員の募集

SC 経営士会として SC 協会の会員募集を行う。尚、入会に至った際に SC 経営士会へ付与されるインセンティブは SC 経営士会のブロック及びグループ活動費等に充てる予定。

2023年度 SC 経営士会 活動スケジュール

2023年3月22日現在

■ 実施済み □：予定

2023年度 SC経営士会 活動スケジュール

	2023年度												2024年度			
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
SC協会行事等		□4/26 第1回理事会(2023年度活動計画決定) 第2回理事会	□5/23 第1回定例会(2023年度活動計画決定) 第2回理事会				□10/1 第1回定例会(2023年度上期事業報告) □10/25 第3回理事会(2023年度上期事業報告)					□1/24~1/26 第48回日本SC全国大会				□第2回定例会(2024年度)
幹事会			□6/23 第1回幹事会			□第2回幹事会						□第3回幹事会				□第4回幹事会
幹事・各グループ ブロック長会議				□夏の例会 (研研付企画)			□秋の例会 9/7(金)~10/1(土) 秋祭会 「日ハム新球場等」探検会									□冬の例会 (関東甲信越ブロック企画)
例会				□人材育成委員会セミナー 追加研修会議			□人材育成委員会セミナー 追加研修会議									□人材育成委員会セミナー 追加研修会議
研鑽・研究グループ				□50周年記念事業 地方支部 地方ブロックとの連携(22年度年間研鑽YouTubの成果発表を兼ねたセミナー全国展開)												
英語・広域グループ				□英語班 法政科学大学 □会員 務業(夜・通称)			□若手・中堅経営士交流会 □THE ORGLE									□人材育成委員会セミナー 追加研修会議
北海道ブロック 3/22更新				□英語班 法政科学大学 □会員 務業(夜・通称)			□若手・中堅経営士交流会 □THE ORGLE									□人材育成委員会セミナー 追加研修会議
東北ブロック 3/22更新				□英語班 法政科学大学 □会員 務業(夜・通称)			□若手・中堅経営士交流会 □THE ORGLE									□人材育成委員会セミナー 追加研修会議
関東・甲信越ブロック 3/22更新				□英語班 法政科学大学 □会員 務業(夜・通称)			□若手・中堅経営士交流会 □THE ORGLE									□人材育成委員会セミナー 追加研修会議
中部ブロック 3/22更新				□英語班 法政科学大学 □会員 務業(夜・通称)			□若手・中堅経営士交流会 □THE ORGLE									□人材育成委員会セミナー 追加研修会議
近畿ブロック 3/22更新				□英語班 法政科学大学 □会員 務業(夜・通称)			□若手・中堅経営士交流会 □THE ORGLE									□人材育成委員会セミナー 追加研修会議
中国・四国ブロック 3/22更新				□英語班 法政科学大学 □会員 務業(夜・通称)			□若手・中堅経営士交流会 □THE ORGLE									□人材育成委員会セミナー 追加研修会議
九州・沖縄ブロック 3/22更新				□英語班 法政科学大学 □会員 務業(夜・通称)			□若手・中堅経営士交流会 □THE ORGLE									□人材育成委員会セミナー 追加研修会議
各ブロックの行事色分けのキャプション																